社会技術研究開発事業
令和６年度研究開発実施報告書

ＳＤＧｓの達成に向けた共創的研究開発プログラム

ソリューション創出フェーズ

「性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関をハブとするCAC(Children's Advocacy Center)モデルの構築」

研究代表者　田上 幸治

（神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター 臨床研究所

部長）

協働実施者　本山 景一

（茨城こども病院 小児総合診療科　副部長）

目次

１．研究開発プロジェクト名 2
２．研究開発実施の具体的内容 2
２‐１．目標 2
２‐２．実施内容・結果 4
２‐３．会議等の活動 8
３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況 9
４．研究開発実施体制 9
５．研究開発実施者 11
６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など 15
６－１．シンポジウム等 15
６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など 15
６－３．論文発表 15
６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） 15
６－５．新聞報道・投稿、受賞等 16
６－６．知財出願 16

１．研究開発プロジェクト名

性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関をハブとするCAC(Children’s Advocacy Center)モデルの構築

２．研究開発実施の具体的内容

２－１．目標

（１）目指すべき姿

本プロジェクトが取り組む社会課題は、子ども虐待、特に性虐待の被害にあった児への取り組む仕組みを変えることである。児童相談所への虐待相談件数は年々増え、2020年には20万件を超えている。その中で、性虐待は全体の1.1%となっている。欧米国ではすべての虐待の中で、性虐待の割合は10%弱、米国でも8.5%（2016年）であり、日本では被虐待児が開示できず放置されたままの状態があると思われる。その原因として、性虐待は歴史的にもっとも見つけにくい虐待であるが、日本では被害を受けた子どもに優しい環境で対応できる仕組みがないことも原因である。PTSDやうつなどの精神疾患や自殺率も高いこの被害児を早く救わなければならない。

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。**子どもに対する虐待、搾取、及びあらゆる形態の暴力を撲滅する。**あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

（２）研究開発プロジェクト全体の目標

- 系統的全身診察の普及プロジェクト

系統的全身診察については、警察/検察や児童相談所の認知も不十分で、対応できる医療機関も限られている。この技法を医療機関に積極的に広めるための枠組みを整備するために、性虐待対応の研修プログラムを新たに作成する。性被害にあった児に系統的全身診察を行う医師がいない地域での人材育成を行う。系統的全身診察の普及グループが研修プログラムを作成し、各地域で研修を行う。KPIは①被害児の安心を与え、証拠保全を確実に行える医師を養成するプログラムの作成とそれによる医師の理解度、②系統的全身診察の研修を受けた医師数と系統的全身診察にアクセスできる地域数。

- MDT 促進プロジェクト

虐待対応において、多機関連携（MDT）は欠かせない。しかしながら、医療、司法、児童相談所の役割は異なり、MDTは課題の一つである。これらを解決するためには、お互いの役割を理解し、協力していくことが必要である。医療がハブになり虐待の医学的な勉強会を開催し、多機関連携を促していくことが可能である。研究代表者の田上は、警察/検察、裁判官、児童相談所、子どもの権利擁護弁護士、医療者と『かながわ子ども虐待勉強会』として2016年から年2回、神奈川県立こども医療センターで開催してきた。MDT促進事業グループがこの勉強会の資料を編集し、乳幼児の頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）、虐待による熱傷、傷痣の虐待診断、ネグレクトによる衰弱、虐待による骨折など

の勉強会資料を作成する。CACモデルネットワークグループの各病院が主催者となり、警察/検察、児童相談所、医療者などを集め、子ども虐待についての勉強会を行う。KPIは①各機関が虐待医学についての知識をわかりやすく共有できる勉強会資料の作成とそれによる各機関の人々の理解度と②各地域での年数回の勉強会への参加した機関数や人数および満足度である。

- Hospital-based CAC モデル事業

CAC（Children’s Advocacy Center）は、虐待対応における、効果的な多機関連携の構築と子どもに優しいワンストップセンターの役割を果たす。CACには様々な形態があるが、警察、検察、児童相談所、子どもアドボカシー、医療、メンタルヘルスなどの多機関多職種が、司法面接、全身診察、症例検討、精神面の評価やTF-CBT（トラウマ・フォーカスト認知行動療法）などの心のケアをワンストップで行っている。本邦では、米国での司法制度、社会制度とは異なり、米国のCACをそのまま適用することは難しい。CACモデルはヨーロッパにおけるBARNAHUSやアジアへ拡がっており、日本の制度にあったCACシステムの構築が求められる。KPIはプロトタイプとしての本邦での医療をハブとしたCACモデルの構築とする。

- CAC ネットワーク（Hospital association for CAC: HACAC 連絡協議会）

性暴力救援・性虐待に積極的に取り組んでいる医療機関で情報交換を行いながら、これらの施設でのCACモデル構築について意見交換を行い、情報発信していく。KPIは年6回のwebでの情報交換会の開催による各地域でのCACモデルの構築の課題を明確化することと日本子ども虐待防止学会での公募シンポジウムの発表による、より広い層への性虐待対応の改善とCACモデルの周知である。

２－２．実施内容・結果

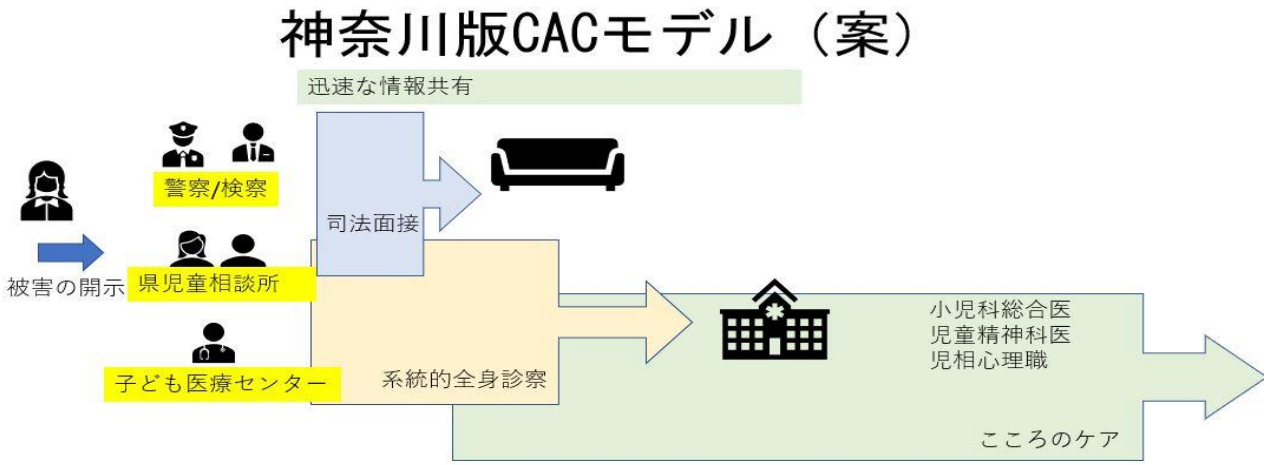
（１）スケジュール

研究開発期間中（42ヶ月）のスケジュール

研究開発項目	初年度 (2024年10月～2025年9月)	2年度 (2025年10月～2026年9月)	最終年度 (2026年10月～2028年3月)	以降 研究開発期間終了後の展開
包括的性虐待対応プログラム 研修実施	神奈川で実施	尼崎、仙台、茨城で実施予定	東京等で実施予定	その他のHACAC医療機関地域で実施予定 有料で継続
CACモデル事業 **一次モデル事業** 神奈川版CACモデル **二次モデル事業** 尼崎、仙台、茨城CACモデル				他地域でも展開
MDT促進事業 **地域でのMDT** MDTグループ	すべてのHACAC医療機関で勉強会を実施予定	HACAC医療機関でアンケートを実施 各地でMDTを醸成する 学会発表		CACモデルにはMDTは不可欠なため、CACモデル事業に含める。
CACネットワーク **HACAC連絡協議会** HACACグループ	性虐待対応拠点病院設置基準案を作成	性虐待対応拠点病院設置基準案を広く検討		継続

（２）各実施内容

- 系統的全身診察の普及
  包括的性虐待対応プログラムを実施している。前橋市での第一回、名古屋市での第二回の研修の振り返りを行い、プログラムを修正し、第三回の準備を進めた。
  2025 年 1 月 18. 19 日に横浜市で第三回包括的性虐待対応プログラムを実施した。
  2025 年度には仙台市、茨城県、尼崎市で開催を予定する。
- Hospital-based CAC モデル事業（神奈川モデル）
  2024 年 4 月県議会で黒岩知事から以下の答弁があった。性虐待について、初期の段階から児童相談所と医療機関が連携し、医療面も含めた子どもを支援する体制づくりを進める。
  これを基に、神奈川県域では県中央児童相談所と神奈川県立こども医療センターが協力し、以下のモデル案を提案した。



児童相談所とセンターが早期に情報を共有し、聞き取り、診察の日程調整、児童相談所の聞き取り、司法面接、系統的全身診察の情報を捜査、調査、支援、心のケアに利用する。早期からの情報共有で、司法面接、系統的全身診察、心のケアをワンストップで対応。性虐待にあった児は大きな心のトラウマを受けるが、すぐにその症状が現れる訳ではない。後に精神症状や性の逸脱、薬物依存、自傷、自殺など様々な困難に見舞われる。そのようなトラウマを負った児を、加害親と分離したから、現在は精神症状がないからと言って放置しておいてはいけない。小児科医（総合診療医）が長期的なフォローを行い、精神科医、児童精神科の診療が必要な場合は速やかに紹介する。センターには児童精神科があり、精神症状に対応する医師もいる。子どもに優しい環境でワンストップ対応することにより、各機関の業務の軽減につながる。多機関との連携にはコーディネーターが必要である。コーディネーターとしてソーシャルワーカーを児童相談所からセンターへの派遣もしくはセンターでの委託事業として行えるように目指す。

- MDT 促進事業
  全国の地域で児童相談所、警察/検察、医療と子ども虐待についての勉強会を開催していく。

- CAC ネットワーク
  HACAC連絡協議会として、二か月毎にZOOMで会議を行い、CACモデルの構築についての課題と改善点、今後の課題、多機関多職種との連携状況について情報共有を行なう。マネジメントシステムの構築をめざし、National Child Alliance はCACの設置基準をもとに、性虐待対応拠点病院設置基準を作成する。

（３）成果

- 系統的全身診察の普及
  2025 年 1 月 18. 19 日に横浜市で第三回包括的性虐待対応プログラムを実施した。性虐待の概要やトラウマ、心のケア、法律、実践的なロールプレイを含め、様々な知識を学ぶ場となったほか、医療が果たすべき職責を、警察・検察、児童相談所、性暴力被害者支援団体の職員と共有する場となった。今回のプログラムでは、医療者、警察・検察・弁護士、ソーシャルワーカー・児童相談所職員など計 54 名が参加した。
  　系統的全身診察についての被害児及び支援者向けのパンフレットを作成し、神奈川県立こども医療センターのホームページ（https://kcmc.kanagawa-pho.jp/support）に掲載するとともに、児童相談所（15 か所）及び系統的全身診察医療機関（5 か所）に配布した（計 850 部）。
- Hospital-based CAC モデル事業（神奈川モデル）
  神奈川モデルを実施していくために、神奈川県こども家庭課と協議を重ねた。
  このようなモデルは各地域でも目指してしていくことを、仙台市立病院、茨城県立こども病院、尼崎総合医療センターが手上げした。これらの医療機関と課題解決に向けて協議を重ねた。
  今後の各地域の取り組みについて、2024 年 12 月 21.22 日に開催された第 26 回子ども虐待防止シンポジウムに仙台市立病院の守谷充司、茨城県立こども病院の本山景一、尼崎総合医療センターの毎原敏郎がパネリストとして登壇し、現状と今後について発表した。
- MDT 促進事業
  神奈川県では以下を実施した。
  10/25　神奈川児童虐待防止医療ネットワーク（web）
  12/13　神奈川子ども虐待勉強会@こども医療センター
  2/28　　神奈川児童虐待防止医療ネットワーク（web）
  今期間中は他地域での MDT による虐待の勉強会などへの訪問はできていない。

- CAC ネットワーク
  プログラムの作成や情報共有を行った。

神奈川県立こども医療センター
前橋赤十字病院
あいち小児保健医療総合センター
沖縄県立中部病院
茨城県立こども病院
北九州市立八幡病院
国立成育医療研究センター
四国こどもとおとなの医療センター
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
日本フォレンジックヒューマンケアセンター
総合病院国保旭中央病院
兵庫県立尼崎総合医療センター
千葉こども病院
仙台市立病院
函館中央病院

マネジメントシステム
性虐待対応拠点病院の設置基準案を策定した（別紙のとおり）。

（４）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- 系統的全身診察の普及
  2025 年度は仙台市立病院、茨城県立こども病院、尼崎総合医療センターにて「包括的性虐待対応プログラム」研修を実施予定。講師陣のスケジュール調整及び準備に時間を要するため、年に 3 回程度の研修実施が妥当であると考える。2026 年度以降は東京などの HACAC 医療機関での実施を予定する。
  2025 年度は性虐待の被害児に向けた「心理教育」及び「リラックスゼーション」のビデオを作成し、Youtube 等にアップロードすることを検討している。
  課題：年 3 回の研修を予定している。多忙の講師陣の調整、研修の実施の準備などの地域の負担もあり、回数を増やしていくことの困難さがある。
  RISTEX ソリューション創出フェーズ終了後は日本子ども虐待医学会での学会主催のプログラムにしてもらうよう協議していく。
- Hospital-based CAC モデル事業（神奈川モデル）
  Hospital-based CAC モデル事業に関する県との文書取り交わしまでは同意が得られなかった。今後、症例を積み重ね、実績を積んでいくことで県との文書取り交わしや、神奈川モデルの展開を目指す。
  また、2025 年度は仙台市立病院、茨城県立こども病院、尼崎総合医療センターに対して、神奈川モデルを展開していく予定。
  課題：神奈川県では知事の言葉もあり、着実に性虐待被害児の診察件数は増えているが、県との取り交わしは了解を得られていない。神奈川県域での性虐待の被害児の子ども

に優しい環境での聞き取り、診察、心のケアをワンストップで行うモデルを構築するために、より広く、広い多機関連携や社会規範の啓発が必要となる。

- MDT 促進事業
  子ども虐待に先駆的に取り組んでいる医療機関が各地域のなかでどのように MDT を構築しているのかを調査し、その秘訣を情報共有する。
  本内容は 2025 年 11 月に開催される日本子ども虐待防止学会でシンポジウムを企画し発表する。
  課題：多機関連携は最も難しい課題である。虐待対応において、警察/検察が係るような事例を対応するような医療機関がハブとなり、児童相談所も含めた多機関連携を促し、その環境の中でもっとも対応がむずかしい性虐待の対応についても対応することがもっとも近道と思われる。全国には子どもの虐待対応に熱心な医療機関があるのでそこがハブとなる必要がある。地域（都道府県に少なくとも一か所）にそのような医療機関を持つことは課題となる。
- CAC ネットワーク
  現状全体で行われている会議を、コアメンバー会議のほか、各グループの会議に移行していく。
- マネジメントシステム
  性虐待対応拠点病院の設置基準を策定する。それをもとに、基準を満たす医療機関については、拠点病院の継続を可能にする財政面での基盤保障を目指す。
  課題：財政面での保障と人材育成。

２－３．会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2024/10/24	HACAC会議	ZOOM	2025年1月18.19研修の打合わせ
11/21	HACAC会議	ZOOM	2025年1月18.19研修の打合わせ
12/22	コアメンバー会議	横浜	今後の方針決定
2025/1/16	HACAC会議	ZOOM	2025年1月18.19研修の打合わせ
2025/2/5	HACAC会議	ZOOM	研修振り返り
3/19	コアメンバー会議	ZOOM	今後の方針決定

３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 系統的全身診察の普及
  系統的全身診察の普及、啓発および被害児への診察の説明の為にリーフレットを作成した。このリーフレットを動画に編集し、性虐待の被害児に向けた「心理教育」及び「リラックスゼーション」のビデオを作成し、Youtube 等にアップロードすることを検討している。
  RISTEX ソリューション創出フェーズ終了後は日本子ども虐待医学会での学会主催のプログラムにしてもらうよう協議していく。
- Hospital-based CAC モデル事業（神奈川モデル）
  仙台市立病院、茨城県立こども病院、尼崎総合医療センターに対して、神奈川モデルを展開していく。
- MDT 促進事業
  各地域での多機関連携の醸成にむけた取り組みをアンケートで収集し、共有する。
  本内容は 2025 年 11 月に開催される日本子ども虐待防止学会でシンポジウムを企画し発表する。

４．研究開発実施体制

（１）系統的全身診察の普及グループ
グループリーダー：本山景一（茨城こども病院　小児総合診療科　副部長）
グループメンバー：毎原敏郎、栗原八千代、森里美、川口真澄、肥田浩佳、神薗淳司、木下あゆみ、田上幸治
役割・概要：性虐待対応の研修プログラムを作成する。この研修事業を全国で行う。講師などの係わる人材育成を行う。

（２）CACモデル事業グループ
グループリーダー：田上幸治（神奈川県立こども医療センター、臨床研究所　部長）
グループメンバー：森里美、林辰司、田中真理奈、滝奈穂、毎原敏郎、守谷充司、本山景一
役割・概要：県中央児童相談所と病院が早期に情報を共有し、聞き取り、診察の日程調整。児童相談所の聞き取り、司法面接、系統的全身診察の情報を捜査、調査、支援、心のケアに利用する。早期からの情報共有で、司法面接、系統的全身診察、心のケアをワンストップで対応。小児科医（総合診療医）が長期的なフォローを行い、必要であれば児童精神科、精神科に相談する。

（３）MDT促進事業グループ
グループリーダー：田上幸治（神奈川県立こども医療センター、臨床研究所　部長）
グループメンバー：木下あゆみ、本山景一、神薗淳司、仙田昌義、植松悟子、栗原八千代、毎原敏郎、川口真澄、加藤美穂子、小川優一、守谷充司、各地域で虐待に

尽力している医療機関
役割・概要：児童相談所や警察/検察と医療機関での子ども虐待の勉強会がない地域で勉強会を開催していき、各地域の中でMDTを醸成させていく。

（４）CACネットワークグループ
グループリーダー：田上幸治（神奈川県立こども医療センター、臨床研究所　部長）
グループメンバー：毎原敏郎、木下あゆみ、守谷充司、本山景一、神薗淳司、森吉研輔、仙田昌義、植松悟子、石倉亜矢子、栗原八千代、小川優一、川口真澄、加藤美穂子、片岡笑美子
役割・概要：医療機関に併設されたCACもしくはCACを目指す活動を行っている組織を中心にCACネットワーク（HACAC連絡協議会）を設立した。HACAC連絡協議会として、二か月毎にZOOMで会議を行い、さまざまな地域でのCACモデルの構築を目指す。

５．研究開発実施者

系統的全身診察の普及グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
本山景一	モトヤマケイイチ	茨城県立こども病院	小児総合診療科	副部長
毎原敏郎	マイハラトシロウ	兵庫県立尼崎総合医療センター	部長	代表理事
栗原八千代	クリハラヤチヨ	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	医長	調査員
森里美	モリサトミ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	医長
川口真澄	カワグチマスミ	沖縄県立中部病院	小児科	医長
肥田浩佳	ヒダヒロカ	茨城県立こども病院	小児科	医長
神薗淳司	カミゾノジュンジ	聖ルチア病院	精神科	医長
木下あゆみ	キノシタアユミ	四国こどもとおとなの医療センター	小児科	医長
田上幸治	タノウエコウジ	神奈川県立こども医療センター	臨床研究室	部長

CACモデル事業グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
田上幸治	タノウエコウジ	神奈川県立こども医療センター	臨床研究室	部長
森里美	モリサトミ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	医長

林辰司	リンタツジ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	医長
田中真理奈	タナカ マリナ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	シニアレジデント
滝崎奈穂	タキザキ ナホ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	非常勤講師
毎原敏郎	マイハラ トシロウ	兵庫県立尼崎総合医療センター	部長	代表理事
守谷充司	モリヤ ミツジ	仙台市立病院	小児科	医長
本山景一	モトヤマ ケイイチ	茨城県立こども病院	小児総合診療科	副部長

MDT促進事業グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 （身分）
田上幸治	タノウエ コウジ	神奈川県立こども医療センター	臨床研究室	部長
木下あゆみ	キノシタ アユミ	四国こどもとおとなの医療センター	小児科	医長
本山景一	モトヤマ ケイイチ	茨城県立こども病院	小児総合診療科	副部長
神薗淳司	カミゾノ ジュンジ	聖ルチア病院	精神科	医長
仙田昌義	センダ マサヨシ	総合病院国保旭中央病院	小児科	医長
植松悟子	ウエマツ サトコ	国立成育医療研究センター	総合診療科	医長
栗原八千代	クリハラ ヤチヨ	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	医長	調査員
毎原敏郎	マイハラ トシロウ	兵庫県立尼崎総合医療センター	部長	代表理事

川口真澄	カワグチ マスミ	沖縄県立中部病院	小児科	医長
加藤美穂子	カトウ ミホコ	あいち小児保健医療総合センター	脳外科	医長
小川優一	オガワ ユウイチ	千葉県こども病院	小児科	医長
守谷充司	モリヤ ミツジ	仙台市立病院	小児科	医長

CACネットワークグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 （身分）
田上幸治	タノウエ コウジ	神奈川県立こども医療センター	臨床研究室	部長
毎原敏郎	マイハラ トシロウ	兵庫県立尼崎総合医療センター	部長	代表理事
木下あゆみ	キノシタ アユミ	四国こどもとおとなの医療センター	小児科	医長
守谷充司	モリヤミ ツジ	仙台市立病院	小児科	医長
本山景一	モトヤマ ケイイチ	茨城県立こども病院	小児総合診療科	副部長
神薗淳司	カミゾノ ジュンジ	聖ルチア病院	精神科	医長
森吉研輔	モリヨシ ケンスケ	八幡病院	小児科	医長
仙田昌義	センダ マサヨシ	総合病院国保旭中央病院	小児科	医長
植松悟子	ウエマツ サトコ	国立成育医療研究センター	総合診療科	医長
石倉亜矢子	イシクラ アヤコ	函館中央病院	小児科	医長
栗原八千代	クリハラ ヤチヨ	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	小児科	准教授

小川優一	オガワ ユウイチ	千葉県こども病院	小児科	医長
川口真澄	カワグチ マスミ	沖縄県立中部病院	小児科	医長
肥田浩佳	ヒダ ヒロカ	茨城県立こども病院	小児科	
加藤美穂子	カトウ ミホコ	あいち小児保健医療総合センター	脳外科	医長
片岡笑美子	カタオカ エミコ	日本フォレンジックヒューマンケアセンター		会長

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

６－１．シンポジウム等

なし

６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

（１）書籍、フリーペーパー、DVD

・パンフレット「性虐待を受けた子どもたちへ」.神奈川県立こども医療センター監修.RISTEX（社会技術研究開発センター）.2025年2月.（03seihigaipanhu_kodomotatihe.pdf）

・パンフレット「性被害をうけたこどもたちを守るためにわたしたちができること」.神奈川県立こども医療センター監修.RISTEX（社会技術研究開発センター）.2025年2月.（04seihigaipanhu_siensyahe.pdf）

（２）ウェブメディアの開設・運営、

なし

（３）学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

なし

６－３．論文発表

（１）査読付き（0件）

●国内誌（0件）

●国際誌（0件）

（２）査読なし（0件）

６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

（１）招待講演（国内会議3件、国際会議0件）

・児童虐待防止委員会主催研修会　厚木市　2024/11/7「児童虐待の早期発見と通告の意義について」田上幸治

・子ども虐待対応・医学診断研修会　静岡市　2025/2/15　「見逃していませんか？子ども虐待」「理想的な性虐待の対応」田上幸治（神奈川県立こども医療センター総合診療科

・医療者向け子ども虐待研修　横浜市　2025/2/25　「医療機関向け虐待対応プログラムBEAMS2」田上幸治（神奈川県立こども医療センター総合診療科

（２）口頭発表（国内会議2件、国際会議0件）

・第30回日本子ども虐待防止学会　高松市　委員会WG企画シンポジウム4　子どもの権利を守るワーキンググループ2024/11/30「無理で片づけていませんか？乳幼児・しょうがい児の権利を考える」　田上幸治

・第30回日本子ども虐待防止学会　高松市　公募シンポジウム「子どものためのワンストップセンターのある社会システムの提言」2024/12/1　「系統的全身診察の普及のための包括的性虐待対応プログラム」　田上幸治

（３）ポスター発表（国内会議0件、国際会議0件）

６－５．新聞報道・投稿、受賞等

（１）新聞報道・投稿（1件）

・田上幸治. 子どもの体・心「全身診察」普及を　性被害ケア　見えない傷まで.東京新聞.2025.4.14.1面.

（２）受賞（0件）

（３）その他（0件）

６－６．知財出願

（１）国内出願（0件）